

支部報告

関東支部報告：印刷博物館 解説見学会『地図と印刷』展と『現代日本のパッケージ2022』展
Kanto Branch Report: Explanatory Tour of the PRINTING MUSEUM, TOKYO "MAP and PRINTING" and "Contemporary Japanese Packaging 2022" exhibitions

井澤 尚子
Shoko Isawa

東京家政学院大学
Tokyo Kasei Gakuin University

関東支部では、印刷博物館の解説見学会を実施しました。この見学会は、コロナ禍になって久しぶりに現地に出向いてのイベントであり、参加者のみなさんはソーシャルディスタンスを保ちながらも、オンラインではない醍醐味を味わうことのできる、充実した内容の見学会となりました。

開催日：2022年11月12日(土) 14:00～16:30
場所：印刷博物館(トッパン小石川本社ビル内)
参加者：13名

博物館と地図展紹介

見学に先立ち、印刷博物館研修室にて学芸員の式洋子氏より「博物館と地図展紹介」のミニレクチャーを伺いました。特に今回開催されている『地図と印刷』展(2022年9月17日～12月11日)のみどころを詳しく紹介していただき、人々が印刷された地図を目にすることができるようになった近世に思いを馳せ、この後の見学への期待を膨らませることができました。



研修室での様子(左：式洋子氏)

プロローグ

総合展示への導入ゾーンでは、引き続き情報伝達手段の歴史を学芸員の方の解説を伺いながら見学しました。ヴィジュアル・コミュニケーションの足跡を貴重なレプリカ資料を前に伺うことができたのは圧巻であり、学会のイベントならではのいえでしょう。

また、今回の見学で気になったのは導入ゾーンの床に描かれている足跡でした。これは、江戸時代に17年かけて日本全国を測量し、初めて実測による日本図を完成させた伊能忠敬の足跡とのこと！歩幅を計測した参加者からは「68.5cm？」などの声も聞かれました。こ

の後のVRシアターでの鑑賞が楽しみになるプロローグでした。



導入ゾーンのレプリカ資料に目を見張る

VR「伊能忠敬の日本図」観覧

足跡に導かれるようにVRシアターで上映プログラム「伊能忠敬の日本図」を鑑賞しました。江戸時代に忠敬たちがどのようにして精緻な地図を作り上げたのか、日本図に込められた謎をバーチャルリアリティで解き明かす、15分間があつという間の興味深い内容でした。(しかし、江戸時代に57歳から17年かけてやり遂げた偉業に、敬意を払いつつも謎は深まるばかりです！)

常設展、企画展『地図と印刷』展、ギャラリー展示『現代日本のパッケージ2022』展見学

常設展、企画展、ギャラリー展示は参加者各々の興味に従って自由見学で行いました。

『地図と印刷』展は、日本の近世を中心に3部構成の展示がされており、印刷物となった地理情報が、「絵図」から「地図」になる過程がよくわかりました。そして、やはり目を引くのは伊能忠敬の実測地図です。実測した海岸線は明確な日本の形状を浮かび上がらせており、世界との接近という観点からも、島国である日本にとって衝撃となったことでしょう。『現代日本のパッケージ2022』展では、日本で開催されているパッケージコンクールの受賞作が中心に紹介されていました。近年はSDGsの取り組みが反映され、とても身近に感じるものもあり、デザインの面白さが際立つ展示でした。